

開催レポート

関西・大阪21世紀協会は、「助成と顕彰」、「関西・大阪ブランドの発信と発掘」、「伝統の進化と創造」の3つを事業の柱としています。この趣旨に基づき、各団体開催の催しなどの協力や後援も行っています。

MUFG Kids Program～異国の楽器でオリジナル音楽をつくろう！

(2023年3月19日／三菱UFJ銀行大阪ビル本館 1階ギャラリーラウンジ)

◆企画・実施協力：公益財団法人 関西・大阪21世紀協会

関西・大阪21世紀協会が「架け橋」となり、関西・大阪を中心に活動するアーティストと文化芸術活動の実施を希望する団体を繋ぎ、文化芸術の活性化を図る「架け橋事業」。三菱UFJフィナンシャル・グループが地域の方々に向けて開催するイベント「MUFG Kids Program」に、インドネシア伝統芸能団Hanajoss※を紹介し、企画協力などを行いました。



伝統楽器を使用した作曲の様子

当日は、インドネシアの国や文化の紹介と、ガムランと呼ばれる伝統楽器を使ってオリジナル音楽を作りました。参加者の皆さんは、佐々木宏実さんの指揮のもとで楽器を使い、曲のテンポを変えたり、繰り返し部分を作ったりして、あっという間に1曲を完成させました。最後は全員



完成した音楽に合わせた馬踊りの様子



ローフィット・イブラヒムさん(左)と佐々木宏実さん(右)

で演奏し、ローフィット・イブラヒムさんが曲に合わせて「馬踊り」を披露。参加者は「楽しかった」「こんなに簡単に曲が作れるんですね!」と、笑顔で語りました。

※インドネシア伝統芸能団Hanajoss(ハナジョス)

メンバーはローフィット・イブラヒムさんと佐々木宏実さん。2002年インドネシアのジョグジャカルタで結成。2005年から日本に拠点を移し、大阪を中心にさまざまな地域でジャワの伝統音楽ガムランと影絵芝居ワヤンの上演を中心に活動。ジャワ舞踊サークルやジャワ語の勉強会、インドネシア料理講座なども開催している。

国指定重要無形民俗文化財 住吉大社 御田植神事 (2023年6月14日／住吉大社)

◆共催：公益財団法人 関西・大阪21世紀協会

穀物の豊かな実りを祈願する御田植神事は、摂政11(211)年、住吉大社御鎮座の際、神功皇后が住吉大神にお供えする神田を定め、長門国(現在の山口県)から植女を呼び寄せて御田植の奉仕をさせたことが始まりといわれています。その後、堺の乳守の遊女が植女となりましたが、明治時代に入って植女の派遣が中断し、加えて御田が民間に払い下げられて神事は廃絶の危機に瀕します。こ



御稔女による神田代舞

の窮地を救うため、大阪新町廓が御田を買い上げて住吉大社へ寄進。また植女の儀も復興され、以来、今日まで大切に受け継がれ、昭和54(1979)年には国の重要無形民俗文化財に指定されました。



御田植奉仕をする人たち

住吉大社の御田植神事は、儀式を簡略化せず厳格に伝承されており、日本の三大田植祭の筆頭とされています。粉黛・戴盃式(非公開)を済ませた御稔女たちは、第一本宮での本殿祭の儀を経て、八乙女、植女、武者、踊り子などに扮した一行とともに御田へ向かい、御田に設けられた舞台では、巫女による田舞(八乙女舞)や御稔女による雨ごい祈願の「神田代舞」などが奉納されました。昨年はコロナ禍で規模を縮小しての開催でしたが、今年はすべての行事が復活しました。

関西・大阪21世紀協会は、大阪の誇るべき伝統文化・神事芸能としてこれを支援しています。



早苗を受けて御田へ向かう植女